
Magical girl † Fate/black †

K U R R

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

M a g i c a l g i r l † F a t e / b l a c k †

【Nコード】

N 3 7 0 7 T

【作者名】

K U R R

【あらすじ】

十七歳の青年は子供を庇い、車に轢かれた。しかし、彼は九歳の子供の身体と力を手に入れ、新たな人生を謳歌する。

魔法が存在する世界で、彼が出会ったのは二人の少女。

彼らは二十一個の願望機をきっかけに出会い、そして物語が紡がれる。

——どうか彼らの行く末に幸多からんことを。

P r o l o g u e (前書き)

とりあえず、やってしまいましたとしか言いようがありません。

Prologue

これは――多分死んだな。

そう思った。実にあっさりと、対した恐怖もなく。

どうやら、俺の平凡な十七年間はここで幕を下ろすらしい。

迫る車の音が加速する。周囲の雑音が静寂と化す。

俺はゆっくりと、突き飛ばした子供を見やった。どうやら、怪我は無かったようだ。

……………もう、いいか。

俺は意識を手放した。

これが十七歳の俺の人生の終わりだった。

――丘の上。

――そこに絢爛なる黒き剣があった。

――少年はまるで吸い寄せられるかのように、心惹かれたかのように、その剣を掴んだ。

――そして、少年の世界は一変する。

あれ？

少年——黒瀬蓮夜くろせれんやは目を開け、辺りを見回した。

「どうということだ？ 俺の記憶が正しければ、車に轢かれたはず
だろ？」

その記憶とは裏腹に、今蓮夜がいるのは、夜の公園だった。
蓮夜は首を傾げる。

「はあ？」

<Nice to meet you, My master. (初
めまして、マスター)>

蓮夜の疑問符と同時に、何処からか電子音声のような物が響いた。

「!？」

蓮夜は驚愕し、再び辺りに視線を巡らす。しかし人の気配もなければ、機械のような物も見当たらない。

そこで、蓮夜は電子音声が自分に近いところで発せられたことに思い至った。

<I am here, My master. (私はここです。
マスター)>

蓮夜の胸元から響く電子音声。蓮夜がそこに視線を移すと、黒い短剣を模したネックレスが架かっていた。

こんな物していたっけ？

そう思いながらも、蓮夜はその電子音声がネックレスから発せられ

たことに気付き、驚愕の声を上げる。

「ネックレスが喋ってる！ 何だ！？ お前！」

<I am your device. My name is called Ota. (私はあなたのデバイスです。名をオルタと言います)>

「デバイス？」

聞き覚えがない。

<Whether does not the master bring any chance know magic? (もしかしてマスターは魔法をご存知ないのですか?)>

「魔法？ それなら知ってる。よくお伽噺に出てくるやつだろ」

<.....>

沈黙。

<As for the master, your age? (マスター、あなたの年齢は?)>

「俺？ 今年で十八だけど」

質問の意図が分からないながらも、とりあえず蓮夜は答える。

<Master... Please watch one's bo

d y w e l l . (マスター……自分の身体をよく見てください) >

「え?」

オルタに言われて、蓮夜は自分の身体に目をやった。

「なっ!？」

蓮夜は目を見開いた。

< I t i s e s t i m a t e d t h a t a p h y s i c
a l a g e o f m y m a s t e r i s a r o u n d
9 y e a r s o l d . (マスターの身体年齢は九歳くらいであ
ると推定されます) >

オルタが言った。それを聞いて蓮夜は開いた口が塞がらなくなる。
そして、自分が夜の公園にいるということすらも、忘却の檻に閉じ
込めて、力の限り叫んだ。

「何じゃこりゃあああ!!!」

とにもかくにも、これが九歳の蓮夜の新たな人生の始まりだった。

P r o l o g u e (後書き)

さてと、プロローグ終了です。

主人公のデバイスが分かった人はいるでしょうか？

次の更新は未定ですが、何卒よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3707t/>

Magical girl † Fate/black †

2011年10月8日20時50分発行